

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2024年12月

結果公表日: 2025年3月27日

回答率

事業所職員: 7名回答、回答率 100%

保護者様: 17名回答、回答率 81%

職員の意見

○環境・体制整備

・事業所はビルの2階にあるが、現在の利用者には問題なくご利用いただいている。雨や雪に備え滑り止めを増やし安全確保が出来ると尚良い。コンセントや壁の出っ張りなどにはカバーを使用して、ケガや事故を未然に防ぐようにしている。職員体制に関しては、法令上の人員基準は満たしているが、男性職員が少ないことがあり、法人内の近隣他事業所と連携して対応している。同性介助が必要な生徒もいるため偏りが無い配置が望まれる。

○業務改善

・利用者入室前に業務前ミーティングを行い、利用者の様子や支援方針等に関して共有・確認を行い、統一した支援になるよう務めている。また、長期休み等で時間が充分に取れない場合は業務用チャットを使用し共有漏れを防いでいる。支援後の振り返りに関しては送迎等の都合で全職員が集まる時間が取れないことも多いため、振り返りを行うタイミングや方法について検討していく必要がある。

○適切な支援の提供

・活動プログラムの立案は事業所職員で話し合っ決めて、前月の活動内容と重複しないようにしている。また、半年に一度は保護者と面談を行い、要望を伺った上で個別支援計画を作成している。

○関係機関や保護者との連携

・感染拡大防止の観点から、各種関係機関との交流や連携を制限していたが、徐々に担当者会議等への参加を行っている。参加が難しい場合は文書での共有などを行っている。送迎時等保護者対応の際は、事業所との間で齟齬が生じないように状況説明するよう心掛けている。

○保護者への説明責任等

・今年度より半年に一度療育参観を行い、保護者の方との交流の場を設けている。しかし、自宅から教室までが遠かったり、日程が合わなかったりと参加数が少なかつたため参加しやすいスケジュールを把握する必要がある。月1回発行しているニュースレターや、教室ブログを定期的に更新することで活動内容をお伝えするようにしている。

○非常時等の対応

・保護者から頂いた基本情報シートをもとに食物アレルギーや持病等の情報を把握している。月1回、自然災害や不審者対応をテーマにした避難訓練を行い、災害時の対応に関して確認している。また、虐待防止研修、身体拘束適正化研修を定期的に行い、法人内の他事業所の職員も交えての意見交換を行うようにしている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・事業所の環境に関しては、来室経験がある方が少なく「どちらともいえない・わからない」とご回答いただいた方が半数以上となった。職員の配置や専門性については、概ね肯定的な意見を頂いたが、「スタッフさんの専門性について詳しく知りたい」とご意見もいただいた。

○適切な支援の提供

・放課後等デイサービス計画の作成、活動プログラムの工夫に関しては9割以上の保護者から「満足している」とのご意見をいただいた。放課後学童クラブや児童館、障害のない子どもとの交流に関しては「特に必要性を感じていない」とご意見をいただいた。

○保護者への説明等

・支援内容の説明や定期的な活動内容の周知等に関しては9割以上の保護者からご満足いただいた。また、家族等も参加できる研修会や情報提供の機会については、「そのような機会を作ってほしい、情報提供もしてほしい」、「個人的には必要ない」とのご意見をいただいた。

○非常時等の対応

・緊急時対応・防犯・感染症対応マニュアルが周知されているか、避難訓練が定期的に行われているかという質問に対して、過半数以上の保護者の方に周知されているという結果になった。

○満足度

・多くの保護者から「事業所の支援に満足している」とご満足いただいた。「楽しそうな顔でデイに行っている」「中高生向けのデイサービスで自分の子どもには合っている」といったご意見もいただいたが、「休みの日は子どもの課題を重点的に指導してほしい」との意見もあったため、引き続きご利用者に満足して頂ける支援を提供できるよう努めていく。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・支援後の振り返りに関しては、送迎等の都合で時間確保が難しい場合もあるが、5～10分の短時間からはじめ、習慣化していく。また、業務用チャットや専用ノートなどを活用し、当日勤務していなかった職員にも周知できるよう、伝達方法を工夫していく。

・保護者に対し、保護者間の交流を希望するか、どういった方法であれば参加しやすい、してみたいかなどをアンケートを実施し、把握する。

○改善できた点・まだ残る課題

・支援後の振り返りに関しては、業務用チャットの使用や翌日の業務前ミーティングで振り返りを行うことにより以前よりスタッフ間での意識が高まっているが、頻度をさらに高めていきたい。

・半年に1度療育参観を開催し、日程決めの段階から保護者の方へ意向を伺い周知することが出来た。保護者間の交流については、ご家庭によって意見に相違があるため参加の意向を伺いながら、開けた教室活動へ繋げていきたい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・集団活動の立案、実施をチームで行えている。また、集団活動の内容を決める際は、前月の活動内容と照らし合わせて、活動内容が固定化しないよう工夫できている。
- ・支援に関わる職員全員が日々の活動内容や個別支援計画の立案を行うことで、生徒1人1人にあった療育が行える教室づくりができています。
- ・非常災害に備えた避難訓練の実施や、事故や怪我があった場合の保護者対応等、非常時の対策・対応ができています。

○改善点

- ・支援後の振り返りについて、業務用チャットや翌日のミーティング内にて時間を確保したことにより改善傾向にあるが、頻度が少ないため毎回振り返りの場を設けられるよう業務改善を行う。
- ・保護者の方との連携について、ご家庭によってはより深いコミュニケーションを必要としているため、ご要望にあわせて保護者対応を密に行い、よりよい支援に繋げられるよう努める。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・支援後の振り返りについては、翌日の業務前ミーティングにて5分～10分時間を取り、スタッフ間で意識化していく。必要であれば以前と変わらず業務用チャットを使用し、振り返り漏れが無いよう努める。
- ・生徒のみではなく保護者の方との関係づくりに対しても重きを置いて支援を行う。

○1年間で取り組む具体策

- ・保護者間の交流について意向を伺いながら、希望するご家庭については定期的に保護者会を開催し、相談の場を設ける。
- ・保護者対応の際には、こちらからの発信のみではなく保護者の方からの悩み事にも目を向け、今まで以上に有意義な保護者対応となるよう教室内にて対応方法を検討する。